

2019年度秋季大会 採択セッション

セッション番号	タイトル	研究分野	研究対象海域	キーワード	代表者	連絡先((at)を@にして下さい)	趣旨	共同コンビーナ
19F-01	熱帯の物理・化学・生物	境界・複合領域	熱帯域、太平洋、インド洋、大西洋	熱帯域、生態系、生物地球化学、大気海洋相互作用	東塚 知己 (東大理)	tozuka(at)eps.s.u-tokyo.ac.jp	大気海洋相互作用により成長するエルニーニョ現象に伴い、全球大気の大気炭素濃度が大きく変動したり、海洋生態系が大きな影響を受けたりすることから、熱帯域も物理・化学・生物の各分野が協力して研究を進めることが非常に重要な海域であり、最近では、TPOS2020やIOE2等の国際的な枠組みでも分野間連携の重要性が強調されている。本セッションは、太平洋・インド洋・大西洋の熱帯海洋の平均場と変動を海洋物理、生物地球化学、生態系、大気海洋相互作用等の様々な視点から捉え、それらのメカニズムや関連性を考察し、統合的な理解の促進を図るとともに、さらなる研究協力の推進を目的とするため、幅広い研究分野・手法からの発表を歓迎する。	升本 順夫(東大理)、 齊藤 宏明(東大大海研)、 本多 牧生(JAMSTEC)、 長谷川 拓也(東北大理)、 名倉 元樹(JAMSTEC)、 時長 宏樹(九大応力研)
19F-02	沿岸域の海洋循環と物質循環	境界・複合領域	内湾・沿岸域、瀬戸内海	沿岸海洋、海洋循環、物質循環	田中 潔 (東大大海研)	ktanaka(at)aori.u-tokyo.ac.jp	沿岸域は生物多様性に富み生物生産の極めて高い海域である。一方、人間活動の場と近いため富栄養化、赤潮、貧酸素水塊など様々な環境問題を抱えている。このような沿岸域での物質循環や様々な現象を理解し、持続的に沿岸域の環境を維持するためには、個々の分野による研究だけでなく学際的なアプローチによる総合的な理解も必要となる。本セッションでは、沿岸海洋をキーワードに、沿岸域における海洋循環や海洋物質循環、それらの変化に伴う海洋生物の応答動態などを学際的に議論し、多様な分野間で知見の共有化を図る。対象とする海域や手法は限定せず、幅広い内容の発表を歓迎する。	森本 昭彦(愛媛大治セ)、 速水 祐一(佐賀大農)、 一見 和彦(香川大農)
19F-03	極域・寒冷域の海洋環境変動に関する分野横断研究	境界・複合領域	極域／ベーリング海／オホーツク海	極域、寒冷域、環境変動、分野横断研究	漢那 直也 (北大北極域セ)	kanna(at)arc.hokudai.ac.jp	近年、極域や寒冷域(ベーリング海、オホーツク海)の海洋環境は変化しつつあり、これらの海域で起こる諸現象と地球環境変動の相互関係が重要視されている。我が国では、ArCS(北極域研究推進プロジェクト)、JARE(南極地域観測事業)、新学術領域研究(南極の海と水床)、SIRAS(オホーツク海水観測活動)等の研究プロジェクトが遂行され、極域・寒冷域研究への関心が高まっている。本セッションでは、極域・寒冷域研究に関する最新の知見を共有するとともに、研究分野・手法・領域を横断した学際的観点から海洋環境変動に関する研究の課題や展望を議論する。上述の研究プロジェクトに関連した研究に限らず、極域・寒冷域の研究成果について広く募集する。	伊藤 優人(北大低温研)、 柏瀬 陽彦(極地研)、 立花 愛子(海洋大)、 木村 仁(JAMSTEC)
19F-04	数ヶ月から数10年スケールの気候変動とその予測～海洋・海水の役割～	物理	全球	気候予測、海洋・海水の役割、プロセス研究、予測技術	土井 威志 (JAMSTEC)	takeshi.do(at)jamstec.go.jp	数ヶ月から数10年スケールの気候変動現象とその予測を対象に、海洋・海水の重要性に注目するセッションを提案する。海洋・海水が予測の潜在的根拠となる気候現象を中心に、予測の基盤となる理論的な側面(観測データや数値モデルによるプロセス研究など)と技術的な側面(数値モデル、データ同化システム、アンサンブル予測手法の開発など)からの発表を歓迎する。	豊田 隆寛(気象研究所)、 中野渡 拓也(水研機構)
19F-05	中緯度海洋の果たす役割	境界・複合領域	亜寒帯域、亜熱帯域、太平洋、インド洋、大西洋、オホーツク海、ベーリング海、日本海、東シナ海、内湾・沿岸域、瀬戸内海、親潮域、混合域、黒潮	中緯度海洋、大気海洋相互作用、海洋前線、海洋生態系	佐々木 克徳 (北大理)	sasakiyo(at)sci.hokudai.ac.jp	中緯度海洋は、亜熱帯循環に伴う暖流と亜寒帯循環に伴う寒流により強い水温勾配をもつ前線が形成される領域であり、かつ大気への熱放出が活発な領域であることから、様々な大気現象に影響を及ぼすことが明らかとなりつつある。その一方で、生物生産が盛んな中緯度海洋は豊かな漁場でもあり、海洋前線や中規模渦、循環場などの物理場変動が海洋生態系変動と密接に関連していることが指摘されている。そこで本セッションは、中緯度域の海洋に軸を置き、大気海洋相互作用に限らず海洋生態系・生物地球化学過程までを含め、メソ・サブスケール現象から海盆規模の現象、数日規模変動や季節変動から温暖化などの長期変動にいたるまでの幅広い時間・空間スケールの研究成果を持ち寄ることで、中緯度海洋の果たす役割の理解を深める場としたい。	東塚 知己(東大理)、 杉本 周作(東北大)、 大石 俊(名大)
19F-06	海洋と大気の力学	物理	全球	力学的理解、数値モデル、波動／流動現象、相互作用過程	尾形 友道 (JAMSTEC)	ogatatom(at)jamstec.go.jp	本セッションでは、海洋と大気中に見られる具体的な現象の中から一般原理を抽出し体系化する事によって数値モデルを構築し、それを現象の解釈・予測・パラメータ化につなげるという海洋物理学・大気力学の意義を再確認する。この円環的な思考を通じて、風波・波浪・内部重力波・ロスビー波・赤道波・潮汐流・渦・蛇行・大循環・境界層・大気海洋系などについての研究発展の見通しが与えられるとともに、共鳴・非線形相互作用・スペクトル解析・確率統計・力学系などの理論の利用方法が開拓される事を期待する。融合発展の見地から、海面高度計等の新たな衛星計画、観測データ・再解析プロダクトの診断手法の開発および、生態系モデルや環境・気候問題を含む学際的な研究発表も歓迎し、新しい発想を生み出す原動力としたい。また、力学的に未解明だが興味深い観測・数値実験・データ解析結果も歓迎する。	田村 仁(港湾技術研)、 相木 秀則(名大)、 三寺 史夫(北大低温研)

19F-07	海洋酸性化と温暖化の生態系への影響評価	境界・複合領域	全球	二酸化炭素、海洋酸性化、地球温暖化、海洋生態系	芳村 毅 (北大)	yoshimura-t(at)fish.hokudai.ac.jp	大気CO2濃度の増加に起因する海洋酸性化と海水温の上昇(温暖化)は全球的にも日本近海においても顕在化している。また、温暖化による表層鉛直混合の弱体化は垂表層の貧酸素化をもたらしており、海洋環境は大きく変化する時代になっている。これらの環境変化は海洋生物への影響を通じて、海洋生態系の構造と機能を変化させる可能性がある。本セッションは沿岸域から外洋域までを対象として、酸性化、温暖化、貧酸素化等の環境変化に関する現状や将来予測、これらの変化に対する生物応答に関する観測、実験、モデル研究の知見を持ち寄り、総合的な議論を進める場を提供する。	藤井 賢彦(北大)、 小笠 恒夫(水研機構)
19F-08	海洋における微量元素・同位体の生物地球化学(SCOR-GEOTRACES ジョイントセッション・英語セッション) Biogeochemistry of trace elements and isotopes in the ocean: from GEOSECS to GEOTRACES (SCOR-GEOTRACES Joint English Session)	境界・複合領域	全球	GEOTRACES、微量元素、同位体	張 勁 (富山大理工)	jzhang(at)sci.u-toyama.ac.jp	GEOTRACES計画はSCORが支援する海洋の大型国際共同研究の一つで、70年代に行われたGEOSECSの継承プログラムとして思案され、2006年の発足以来、全海洋の微量元素・同位体の分布を高精度クリーン化学分析技術により明らかにしつつある。現在、米・英・仏・日など40近い国が参加しており、海洋の縦断・横断的な断面観測などを行い、地球環境変動における海洋の生物地球化学的サイクルの役割解明など、重要な研究課題を幅広く扱う。昨今の顕在化する気候変動に直面し、今後、更なる国際共同海洋調査など、物理学、化学、生物学の学際的な研究の進展が必要不可欠である。本セッションでは海洋における幅広い分野の発表を歓迎し、国内外の第一線の研究者を迎え、積極的な情報交換・交流の場を提供する。	小畑元(東大大海研)、 熊本雄一郎(JAMSTEC)
19F-09	海洋教育・アウトリーチ活動の実践と課題	境界・複合領域	全球、極域、亜寒帯域、亜熱帯域、熱帯域、太平洋、インド洋、大西洋、オホーツク海、ベーリング海、日本海、東シナ海、南シナ海、内湾・沿岸域、瀬戸内海、親潮域、混合域、黒潮	海洋教育、理科教育、アウトリーチ活動	丹羽 淑博 (東大海洋教育センター、教育問題研究会)	niwa_y(at)u-tokyo.ac.jp	近年、我が国では海洋立国の将来を担う人材の育成を目指す海洋教育の充実を求める動きが広がっている。また国際的にも、ユネスコIOC主導の下、2021年から2030年までを「持続可能な開発のための海洋科学の10年」とする決議が2017年に国連総会でなされ、科学コミュニティ、政策立案者、企業や一般社会に力の結集が呼びかけられている。この流れの中で、子供や一般市民に海洋の役割や重要性を教えるために、学会会員を始めとする海洋学の専門家の役割がますます重要となってくる。そこで、海洋にかかわる教育・アウトリーチ活動をおこなっている各会員の実践経験を共有し、海洋科学の重要性・役割を効果的に伝える方法や学校教育で海洋を扱う意義を議論する場として、本セッションを開設する。	市川 洋(教育問題研究会)、 豊田 邦夫(東海大学、教育問題研究会)、 須賀 利雄(東北大学、教育問題研究会)
19F-10	海洋中における乱流混合の実態とその役割 一表層から中・深層、底層まで	境界・複合領域	全球	内部波、深層循環、物質循環、生物生産	田中 祐希 (東大理)	yuki.tanaka(at)eps.s.u-tokyo.ac.jp	近年における乱流観測技術のめざましい進歩に伴って、以前に比べてはるかに精度の良いデータ取得が可能になり、世界中のさまざまな海域において海表面から深海底に至るまで乱流データが急速に集積してきている。本セッションでは、最近の乱流観測結果も含めたデータ解析、さらにその結果に基づいた理論的な考察を通じて、表層から中・深層、底層に至るまでの乱流混合の実態や、これらの乱流混合が海洋中の物理・化学・生物環境に果たしている役割に関して、あらたに解明されたことを確認するとともに、得られた知見をもとにした議論を通じて、今後の乱流研究に関する方向性を探っていきたい。	永井 平(東大理)、 田中 雄大(水研機構)、 日比谷 紀之(東大理)
19F-11	海洋物理一般	物理	全球		プログラム編成委員会	jos2019fall(at)gmail.com		
19F-12	海洋化学一般	化学	全球		プログラム編成委員会	jos2019fall(at)gmail.com		
19F-13	海洋生物一般	生物	全球		プログラム編成委員会	jos2019fall(at)gmail.com		
19F-14	海洋科学総合	境界・複合領域	全球		プログラム編成委員会	jos2019fall(at)gmail.com		